

茶園における秋春の最適整枝時期について

徳永保利・藤田 進・有村清光・古野鶴吉 (宮崎県総合農業試験場茶業支場)

Yasutoshi TOKUNAGA, Susumu FUJITA, Kiyomitsu ARIMURA and Tsuruyoshi FURUNO :
The Best Tea Field Skiffing periods in the Spring or Autumn

茶園の整枝は通常、春と秋に行われ摘採に際して古葉の混入を防ぐと共に頂芽を摘除することによって、収量構成要素の芽数を増加させるなど栽培上重要な管理作業となっており、秋は茶芽の生育停止期、春は萌芽前の時期を中心に実施されている。近年、整枝時期の相違により、一番茶収量が大きく変動する場合がみられ、一番茶収量の安定化が望まれている。そこで、最適整枝時期を把握し収量の安定化を図るため成木茶園における整枝時期と生育特性、収量等について検討したので、その結果について報告する。

1. 試験方法

やぶきた品種成木茶園を供試し、秋は10月1日、11日、21日、31日及び11月10日、春は2月24日、3月5日及び15日の8時期に整枝した。整枝は三番茶摘採面より4cm上でハサミ摘みで行い、1区10m²、3区制で実施した。なお、その他の耕種は標準耕種基準に準じた。

2. 結果及び考察

萌芽期及び摘採期をみると第1表のとおりであった。秋整枝時期の早い区ほど萌芽は早い傾向がみられた。春整枝では差はほとんどみられなかった。一番茶の年次別収量の推移は第2表のとおりであった。秋整枝の場合、10月21日区 (慣行的時期) に比し、10月1日区、11日区と時期の早いほど多収であり、10月21日～11月10日の整枝は最も劣った。春整枝の場合、2月24日区、3月5日区は収量の不安定が、ややみられたが3月15日区は極めて安定していた。秋、春の違ひでは秋より春整枝の方が安定多収型を示した。整枝時期と摘採面の第1・2の越冬芽の凍害発生を、平均率でみると10月1日区～2月24日区は21.8%～32.4%に対し、3月5日区及び3月15日区は10.5%及び15.8%と低い発生率であった。

整枝時期と低温遭遇日 (秋の最低気温マイナス2度C、春の場合マイナス4度C) までの日数は、秋整枝の場合1984年は46日後、'85年は64日後、'86年は60日後に低温遭遇する区が多収を示した。これは整枝後、越冬芽が低温抵抗性を得るのに46日以上を要するものと思われた。春整枝の場合2月24日区は整枝後1～5日目に低温遭遇するものの3月5日区、15日区では遭遇しなかった。当地の気象条件から解析すると2月下旬から3月上旬は春整枝後に極低温となる頻度が高く、これが整枝直後の茶芽に低温害を及ぼしているものと考えられた。以上の調査結果から、10月21日～11月10日の整枝は劣り秋整枝の時期は10月1日～20日、春整枝は3月5日～15日が安定的な収量を示し、この時期が適期と思われたが10月1

日区は整枝後の気温が茶芽の生育温度範囲のため若葉の拡大生長現象がみられ、これらが一番茶へ混入するので再整枝を必要とした。したがって、秋整枝の最適期は10月11日～21日、春整枝は3月5日～15日と判断された。

第1表 整枝時期と萌芽期、摘採期等

整枝時期	整枝量 (10a当たり)	萌芽期	摘採期	
			一番茶	二番茶
58. 10. 1	489kg	4月7日	5月4日	6月18日
10. 11	531	4. 9	5. 6	6. 19
10. 21	622	4. 12	5. 7	6. 19
10. 31	668	4. 12	5. 9	6. 20
11. 10	703	4. 12	5. 10	6. 20
59. 2. 24	603	4. 12	5. 11	6. 20
3. 5	705	4. 12	5. 10	6. 20
3. 15	687	4. 13	5. 12	6. 21

第2表 年次別収量指数の推移

整枝時期	59	60	61	3ヵ年平均	
	1番茶	1番茶	1番茶	1番茶	2番茶
10. 1	125	103	111	113	106
10. 11	129	115	101	115	101
10. 21	100	100	100	100	100
10. 31	104	101	101	102	104
11. 10	110	102	92	101	101
2. 24	143	105	103	117	106
3. 5	125	103	107	112	111
3. 15	152	110	110	124	100